

2014年度在宅医療助成（後期）指定公募②  
『在宅看取りを伴う在宅医推進』のための研究会、研修会への助成」  
テーマ：重度障がい児者コミュニケーション力育成支援者研修会  
コミュニケーション支援者 サポーター養成を目指します！！

完了報告書

平成28年2月 提出  
京都大学医学研究科人間健康科学系専攻成育看護学分野  
鈴木 真知子  
共同申請者：株式会社クリアクト（営業部長 伊藤 直弥）

## I. 企画意図

障がい重い人とのコミュニケーションはどのように図ることができるでしょうか？平成24年度の9月に人工呼吸管理を要する18歳未満の重度身体障がい児保護者を対象に意思伝達に関する全国の実態調査を実施し、コミュニケーションへの多くの支援ニーズのあることが明らかとなった（鈴木、2013）。また、これまでの支援経験を通じ、子どもの「はい、いいえ」の意味も汲み取れず、教員は子どもへの対応に苦慮していることを聞く。ご家族からは「やっと入学できた学校。みんなと一緒に勉強をさせてやりたいし、せめて自分の名前ぐらいは、書けるようにしてほしい」という願いを聞く。また「親として何かこの子にしてやれることはないのか」と苦悩しておられるご家族にも出会う。

支援のきっかけは、「一度でもいいからこの子と通じ合えたという思いが得られたら・・・」「子どもがただ生きているだけでは、子どもを育てていけない」というお母さんの言葉からだった。

2014年5月には、トビーコミュニケーターというパソコンへの入力操作を、マウス、スイッチ、視線のいずれにも対応可能なソフトを用い、重度身体障がい児向けのひらがな学習教材「まなぶはじめてのひらがな」を作成、製品化し、全国の希望者に配布している。トビーコミュニケーターを利用するには、そのソフトならではの編集上のコツがあり、そのコツさえ理解すれば誰にでも簡単に応用的に編集することができる。

そこで、今回、勇美記念財団様からの助成により、諸先生方、各地域の協力者の方々のご理解とご協力のもと、日本全国4か所で研修会を開催した。重度障がい児者のコミュニケーション機器の特徴と有用性、視線入力装置の有効活用など、コミュニケーション機器を使用することによってどの様なQOLの向上に繋がり、どの様な有益性があるのか等の理解を踏まえ、この研修会では、個々の力に応じた内容に編集をすることが可能なソフト、トビーコミュニケーターの編集方法を学び、地域で支援者をサポートする人材の養成を目指して企画した。

## II. 日程、開催場所

### ■東京会場

日時；2015年8月1日（土）10：00～18：00

場所；京都大学東京オフィス（品川インターシティ 27階）

定員；60名

### ■北海道会場

日時； 2015年11月21日（土）9：30～17：00

場所；札幌市北翔養護学校体育館」

協力団体；医療法人 稲生会

定員；60名

#### ■ 広島会場

日時；2015年12月12日（土）9：30～17：00

場所；広島県健康福祉センター

協力団体；広島支援機器研究会

定員；60名

#### ■ 関西会場

日時；2016年2月7日（日）9：30～17：00

場所；京都大学医学研究科人間健康 杉浦地域医療研究センター

協力団体；訪問看護ステーションアドナース/訪問介護まごのて洛西

定員；60名

### Ⅲ．内容

#### ■ 東京会場

##### 1）重度障害児者のコミュニケーションについて（講義 60分）

講師；小林 春美先生（東京電機大学教授・コミュニケーション科学研究室主宰）

著書「新・子どもたちの言語獲得」 その他多数。現在、人間の視線によるコミュニケーションとその発達、発話における視線と動作の協調運動等について研究を進めています。このような知見を調べることで、ヒトの“空気を読む”性質を解き明かそうとしています。 <http://www.kobayashi-lab.rd.dendai.ac.jp/main.html>

##### 2）支援機器でこんなふうに世界が広がる！？支援機器の特長と適応などの解説（講義 60分）

・支援機器の必要性 ・支援機器紹介、選定と比較 ・スイッチ選定のコツ

講師；仁科 恵美子 さん（NPO 法人 ICT 救助隊 理事）

##### 3）看取り経験を通じて支援を考える（家族のお話 30分）

講師；影山 勉之 さん（SMA-1、2歳4か月で亡くなる、現在、全国のご家族からの要望に応じ、ボランティアでスイッチや固定器等の制作をしている）

<http://members3.jcom.home.ne.jp/shadowmt/syoukai.html>

##### 4） 昼休憩 & 機器展示 （60分）

##### 5） 視線入力装置マイトビー紹介（講義 30分） 新たな技術によるコミュニケー

ション

講師：伊藤 直弥さん（株式会社クレアクト 営業部長）

6）視線入力装置の有用性、ユーザーケース（講義 60分）

講師；鴨下 賢一 先生（静岡県立こども病院 専門作業療法士 福祉用具・特別支援教育）

7）トビーコミュニケーター編集方法（実習 120分）

・スイッチ、視線などの多様なインターフェイスに対応する画面作成ソフトの紹介と編集

講師：伊藤 直弥さん（株式会社クレアクト 営業部長）

## ■ 北海道会場

1）人と人の関わり合いにおける基本的視点について（講義 60分）

講師：川田 学先生 北海道大学大学院教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター

2）支援機器でこんなふうに世界が広がる！？支援機器の特長と適応などの解説（講義 60分）

講師；佐藤 美由紀さん NPO法人 icare ほっかいどう

3）昼休憩 & 機器展示（80分）

4）看取り経験を通じて支援を考える（講義 30分）

講師；岩野 みのりさん（家族のお話）

5）視線入力装置マイトビー紹介（講義 30分）新たな技術によるコミュニケーション

講師：伊藤 直弥さん（株式会社クレアクト 営業部長）

6）視線入力装置の有用性（ALS使用者の体験談 30分）

講師：深瀬 和文さん

7）トビーコミュニケーター編集方法（実習 100分）

スイッチ、視線などの多様なインターフェイスに対応する画面作成ソフトの紹介と編集

講師：伊藤 直弥さん（株式会社クレアクト 営業部長）

## ■ 広島会場

1）重度障害児(者)のコミュニケーションについて（講義 60分）

講師：七木田 敦先生 広島大学大学院教育学研究科 附属幼年教育研究施設

2）支援機器でこんなふうに世界が広がる！（講義 60分）

講師：中村 内彦さん

パシフィックサプライ株式会社 事業開発本部 事業推進部 施設・在宅ケア事業グループ

3) 昼休憩 & 機器展示 (80分)

4) 看取り経験を通じて支援を考える (講義 30分)

講師：村瀬 晴美さんとお父様、ご兄弟からのお話

5) 新たな技術によるコミュニケーション視線入力装置マイトビー紹介 (講義 30分)

講師：伊藤 直弥さん (株式会社クレアクト営業部長)

6) 視線入力装置の有用性 (ALS 使用者の体験談 30分)

講師：三保 浩一郎さん

7) トビーコミュニケーター編集方法 (実習 100分)

講師：伊藤直弥さん (株式会社クレアクト営業部長)

## ■ 関西会場 (京都)

1) コミュニケーションデザイン研究から考える「伝えると伝わるのちがい」(講義 60分)

講師：塩瀬 隆之先生 京都大学総合博物館 / 京都大学デザイン学ユニット

2) 支援機器でこんなふうに世界が広がる！ (講義 60分)

講師：中村 内彦さん

パシフィックサプライ株式会社事業開発本部事業推進部施設・在宅ケア事業グループ

3) 昼休憩 & 機器展示 (80分)

4) 看取り経験を通じて支援を考える (家族のお話 30分)

講師：村瀬 晴美さんとお父様、ご兄弟からのお話

5) 新たな技術によるコミュニケーション 視線入力装置マイトビー紹介 (講義 30分)

講師：伊藤 直弥さん (株式会社クレアクト営業部長)

6) 視線入力装置の有用性 (講義 30分)

講師：高松 崇さん NPO 法人支援機器普及促進協会 (ATDS)

7) トビーコミュニケーター編集方法 (実習 100分)

講師：伊藤直弥さん 株式会社クレアクト営業部長

## IV. 結果

### 1. 参加者状況等

#### ■ 東京会場：

▲ 申し込み数 65 名、当日の参加者数 67 名 (内 講師とスタッフ 10 名)

▲ アンケート回収 51名（回収率 89.5%）

▲ 研修会について感想，意見など

- ・ 実際の症例が参考になった
- ・ 盛りだくさんの内容であった分、一番知りたかったコミュニケーターの編集が中途半端
- ・ 休憩時間は講義の合間に
- ・ 初級編、上級編があってもよかった
- ・ ICT 講演がもう少し詳しく知りたい
- ・ 自分が知らなかったコミュニケーションを教えていただき、勉強になった
  - ・ 動画再生等の段取りが悪い
  - ・ 講義の時間配分を。時間内に講義が終了することを意識して講義を。
  - ・ 編集の実習について、もっとついていけるよう指導をお願いしたい
  - ・ 病院に戻り、学んだことをチャレンジしていきたい
  - ・ 重心児者に対して実際の動画から今後の可能性を感じ、施設でどのように活用できるのか想像が膨らんだ
  - ・ 初心者レベルの講義と中級レベルの実際編とを分けて研修してはどうか
  - ・ 体験版の日数が過ぎ、実際に購入するとその価格は？
  - ・ 開始時間をもっと早くし、終了時間を早く
  - ・ 療養者に是非コミュニケーターを紹介したい

■ 北海道会場：

▲ 申し込み数 71名、 当日の参加者 68名（内 講師とスタッフ 12名）

▲ アンケート回収 31名（回収率 55.4%）

▲ 研修会について感想，意見など

- ・ 定期的にしてほしい内容
- ・ このような機会をもうけてくれたことに感謝、続編にも期待
- ・ ボリュームがあり、勉強になった
- ・ 今後のサービスに生かしていきたい
- ・ もっと実習時間があると良い
- ・ 理解が不十分な状態なので、繰り返し受講希望
- ・ 有意義な研修会
- ・ 充実した内容
- ・ 大変勉強になった、講演のテーマが幅広く、視点が広がった
- ・ とてもためになり、日常の業務に役立てたい
- ・ 今後もし是非続けてほしい

- ・是非続編を
- ・機器や機器以外の伝達方法を学びました。深瀬さんの話が印象的
- ・性別欄を男性/女性/どちらでもない、に
- ・自己/他者、マイトビーの詳細が分かり、受講してよかった
- ・視線入力装置を体験、簡単なものだと分かった、編集は早くてよく分からなかった
- ・とても興味深く、楽しかった
- ・構えることなく、参加できた、コミュニケーション支援は難しいが、焦らなくても良いのだと思った
- ・未来ちゃんと家族の生活を、悲しみは続く中、お母さんのことばで教えていただいた
- ・機器がすべてではないということを実感し、その人が何を伝えたいのか、どう過ごしたいのかを、本人、家族、周囲と考えながら探していきたいと思った
- ・研修内容が濃くて良かったが、2日間かけるべき

■ 広島会場 :

- ▲ 申し込み数 49 名、当日の参加者 60 名 (内、スタッフ 9 名、介助員・家族 4 名)
- ▲ アンケート回収 36 (配布数; 45、回収率 80.0%)
- ▲ 研修会について感想, 意見など
- ・有意義な研修会、これからの参考になる
- ・とても勉強になりまた、今行っていることへの自信にもなった
- ・機器を使用することだけがコミュニケーションではないと感じた。七木田先生の「コミュニケーションの表情や身体性」「いるということ」にも共感できた
- ・丁寧な説明、分かりやすかった、有意義な 1 日
- ・支援学校に通学しており、コミュニケーションの難しい生徒が多い、少しでも知りたいと思った、支援学校に通学している私にも分かりやすかった、友達にも紹介したい、装置の説明が分かりやすく、質問にも分かりやすく答えていただいた (機器展示で)
- ・視線入力装置について、知ることが出来て良かった
- ・使用している利用者があるので、設定変更は実際の現場で大変役立つと思う
- ・来年も参加したい、可能なら土曜日ありがたい
- ・実際に機器をみたり、説明が聞けて良かった (機器展示で)
- ・中村さんが挙げていた事例の具体的な話が聞きたい
- ・コミュニケーションツールは利用したことはないが、今回の研修で体験し、今後利用希望者がいたら紹介したい
- ・無料の研修で内容がたくさん、ご家族や当事者の話も聞け、大変貴重な経験だった

- ・とても勉強になる会だった

■京都会場 :

▲申し込み数54名、当日の参加者 63名（内、スタッフ、講師・家族 10名）

▲ アンケート回収 47（回収率 88.6 %）

▲ 研修会について感想, 意見など

- ・ 日常の臨床を見つめなおす大変良い機会になった
- ・ 特に「出来なくさせられない」は原点を意識させられた
- ・ 最近コミュニケーション支援から離れていたの色々進化していると思った、伝わるように支援者がしっかり考えないと、改めて思った
- ・ とても興味深い内容ばかりだった、自分の施設でパソコンに詳しい人がおらず、はがゆい思い、三重県でも相談できる場所があったらと思う
- ・ 高松先生のお話は、参考になった
- ・ 児に対して難しいことを強要しない、「楽に使えるもの」という発想からすると、最初から視線入力装置を使う（申請する）のが良いと思う
- ・ とても貴重な時間だった、今日の学びを生かせるように頑張りたい
- ・ とても分かりやすく興味深かった
- ・ 一人一人のペースでの実技だったので助かった
- ・ 非常に勉強になりためになった、今後に備えることができた
- ・ 早速お子さんに合った編集に取り組んでみたいと思う
- ・ 小児と成人後（中高齢者発症）の疾患の差異を感じる
- ・ またの開催を楽しみにしている
- ・ パソコンを用意するようと言う案内があれば良かった

V. 研修会全体の感想

本研修会の全体評価として、アンケートによる評価では、4回を通じ、講演については、ほぼ全員が「良い」と回答した。実習については、1回目は「あまり良くなかった」と回答したものが3名であったが、最終回では「普通」が1名、そのほかの全員が「良い」と回答し、高い評価が得られた。特に実習は、パソコンの知識がほとんどないものから、使い慣れており、知識も豊富な方まで、個人差が大きく、実習の進め方には課題があった。会の途中からは、パソコンの知識がほとんどない方たちに焦点を合わせて実習を進めていくように変更した結果、上記のように好評を得ることができた。それらより、参加者の参加満足という観点からは、概ね本研修会の目的は、



果たせたのではないかと考える。

次に、1. 研修会企画、2. 研修会の運営、3. 広報、の3点から検討し、感想を述べる。

#### 1. 研修会企画について

本研修会の企画は、身近になった視線装置を中心に、重度障がい児者へのコミュニケーション支援の地域におけるサポーター養成を目標にした。具体的には、①子どもの発達的な視点を重視したコミュニケーションの基盤となる「考え方」、②家族による子どもの看取り体験や、実際の利用者の体験を通じて得た支援のあり方、③コミュニケーションを下支えする支援機器に関すること、④ソフトについて；個々の利用者が使いやすいように編集するコミュニケーターの編集のコツ、の4つを柱にした。

研修会後のアンケートによる意見として、当初の会では、・タイム管理が不十分、午後に詰め込んだ感があるので、バランスよく時間配分を、・内容が盛りだくさんすぎてすべての理解は無理、・休憩時間が少ない、・寒かった、・少し聞きにくかった、・アクセス面、・視線入力のお試しが出来たら良かった、・研修会と会場側の内容確認をしっかりと、などが得られたため、それらの意見を遵守し、2回目より調整した。受講者の満足度や達成度に差異はあるものの、上記柱の①については、・小林先生の話が基盤、もっと聞きたかった、・七木田先生の木の幹のように成長していくという言葉が最も印象的、・コミュニケーションの考え方、理解が深まった、・子どもの主体性を伸ばすための考え方を再確認できた、・障がい児のとらえ方が聞けてよかった、川田先生の話が特に障がい児に関わらず自分と利用者の関わりを振り返るきっかけになった、・時間や場、空間を共有することの意義を改めて感じた、・日頃高齢者の方が対象なので子ども達のことを知ることが出来て良い時間だった、・塩瀬先生のコミュニケーションの視点が改めて考えさせられた、・塩瀬先生の話が良かった、同感です、などの意見が得られ、コミュニケーションの基本的な「考え」や、こどもの発達的な視点からコミュニケーション支援を考えることの重要性は、伝えることができたと考える。その一方では、研修会を開催するその地域から、また、限られた研究・実践領域の中から講師を選定し、複数の講師間での日程を調整しながら、場所の選定など、研修会を企画、運営するには、多くの労力を費やした。

本研修会の特化すべき内容ともいえる実習については、・マイトビーをよく聞くが触れる機会がなかったので貴重な体験、・実際の画面が見られたのが良かった、・トビーコミュニケーターの編集が理解できた、・支援機器の導入の流れがイメージできた、・実際に実習をすることで使い方を知ることができた、・実際の使用例や実技もあって分かりやすかった、などの意見が得られ、実習によって、他の研修会との差別化を図ることができた。しかし、前述したように、参加者のパソコンに対する知識にレ

ベル差があり、一斉に行う実習の難しさと、参加者人数、個々の参加者に対応可能な講師の数と予算など、検討課題が示された。参加者による講義と実習の各々について、4回の感想をまとめて下記に示す。

(講義について)

- ・コミュニケーションは対人関係において大切、特化した研修会が少ない、貴重な話でした
- ・幅広い講師、内容、時間は長い、濃く、1日があつという間に過ぎた、発達におけるコミュニケーションの話など色々な面から話を聞くことができた、内容が盛りだくさんだが、充実し、しっかりした内容で分かりやすかった、学ぶことがとても多く、とても勉強になった
- ・自分が知らないコミュニケーションについて知識が得られた
- ・利用者の方の話、家族からの話は、普段聞けないので貴重な経験になった
- ・看取りの話など具体的な話が聞けて良かった、当事者の話が聞けてより現実に近いイメージが得られた
- ・ご家族の話もグリーフにもかかる話でもあり、余命短い児に関わっている身としては寄り添う気持ちを深めようと思った
- ・実際に行うところを見たり、パソコンも使えたので分かりやすかった
- ・基礎から実践編まで分かりやすく話していただき、理解が進んだ
- ・障がい児者のみでない方のコミュニケーションにも役立つ
- ・高松先生の ICT 機器使用に対して無理強い感があるのも同感
- ・実践的知見が勉強になった
- ・情報（最新で便利なものがたくさん出てきている、スイッチに関すること）と活用を知ることができ、興味が得られたので、帰ってから検索してみようと思う
- ・アイフォンのスイッチコントロールを知った
- ・実際の装置を手に触れたり使いながらの話で勉強になった
- ・様々な職種の視点から話が聞けた
- ・本人に文字、数字が内にあるのか、文字盤使用は、難しいので、本当はそこまで行きたが、どこまで内臓しているのかが知りたいと思う
- ・異なった分野の方からのお話が聞けたのが良かった
- ・障害者の立場に立ってその人にとって、今、どのようなコミュニケーションをとること大切で、単に AAC を導入すればよいという訳ではないことを理解できた
- ・今迄にしていたことを改めて考えることができた
- ・普段聞くことが出来ない話が聞けて良かった
- ・コミュニケーションに対し普段頭の中で考えていることを言語化するヒントがいただけた
- ・様々な視点からの話が聞けて面白かった、新しい知識も得ることができた

- ・ご家族の話聞く機会がとて少ないので、お話いただけありがたかった
- ・コミュニケーションツールについて、何となくしか知らなかったことが明確になった
- ・内容が多岐にわたっており、おもしろかった、とても勉強になった
- ・コミュニケーションの根本的なことが再認識できた、相互に同等のものでなければならず、方法、手段は無限のものだと勉強になった
- ・機器の説明だけでなく、話の内容が多岐にわたり勉強になった
- ・おもしろかった、とても
- ・心理面、実用面の両面からの話があって、とても分かりやすかった
- ・言葉以外でのメッセージを受け取る、支援機器に頼るだけではなく、表情等行えるコミュニケーションが大切と思いました
- ・コミュニケーションについて、深く考えることができて良かった
- ・伝える⇒伝わる、どう受け止めているかを考えること、とても分かりやすく参考になった
- ・具体的な支援を学べた
- ・コミュニケーションデザインの重要性を大学でも研究していることが分かった
- ・コミュニケーションの基本の学びができた
- ・すごく勉強になった

(実習について)

- ・パソコンをどのくらい理解している人が実習についていけるのか事前に情報があればよい
- ・分かりやすい説明だった
- ・ソフトの使用、カスタマイズが直接できた
- ・早くて難しかった、時間がもっと必要
- ・むかしパソコン関係の仕事をしていたので、もう少し難しくても良かった
- ・パソコン初心者には、使いこなすのはやや難しいと感じた
- ・スピードが速く追いつくのが大変だった
- ・少し分かりにくい部分もあった、もう少し質問に答えられる講師が室内にいたら良かったのでは
- ・丁寧に説明してくださり、複雑なところもあったが大よそ分かった気がする
- ・発展性が理解できた
- ・マイトビー、視線入力装置について知ることができた
- ・実際に使ってみたいと思った
- ・画像が見られて良かった
- ・実際のソフトの編集を学ぶことができ、良かった
- ・使用できる中身が実際にトライできた
- ・一人ひとりに合った使い方を知ることができた

- ・もう少し詳しく編集面を教えて頂きたかった
- ・パソコンを触りながら出来たことで疑問を解決しながら取り組めた
- ・実際に操作できたので分かりやすかった
- ・プログラム作成の経験が出来て良かった
- ・様々な機能のあることが分かり、楽しく話が聞けた
- ・マイトビーは目も疲れず、簡単、マイトビーの楽しさ、応用性が分かった
- ・実際に自分のパソコンで体験でき良かった
- ・プログラム作成は難しい
- ・パソコン入力の実習がお手上げ、説明が早すぎる。参加者レベルを分けて実習をしてはどうか
- ・詰め込み過ぎて疲れた。
- ・アプリ作成ではパソコンを見るだけで疲れた、ついていけず、途中で諦めた
- ・コミュニケーターの編集は、もっと時間を取ってゆっくりやってほしい、編集テキスト希望
- ・実用的で今後コミュニケーション支援機器が必要な利用者がいれば、一緒に学びながら上達していきたい
- ・電源が取れるとは思わなかったので、バッテリーを消費した、ケーブルを持って来れば良かった
- ・実習を個々にすることはないので
- ・説明が分かりやすかった
- ・懇切丁寧、感謝
- ・ソフトに触れるきっかけになった、実例なども知りたい
- ・パソコンが苦手、目の前で使い方を教えてもらい良かった
- ・実際に話が聞けて、漠然としたイメージがはっきりと理解できた
- ・やりながら教えてもらいよかった、充分に分からなかったこともあるが
- ・さらに詳しく教えてほしい
- ・実際に扱った経験が今後役立つと思う
- ・中級、上級の話があれば良かった
- ・時間が少なく、もう一つの理解で終わってしまった
- ・すぐにトビーコミュニケーターを使わないので忘れそう
- ・マイトビーが職場にあるが使いこなせていない
- ・追いつけない人への配慮を、好き放題に編集しすぎて作成することへの関心がバラバラ

## 2. 研修会の運営について

全国4か所で開催することにより、各地域で支援者のサポーター的役割を担ってもら

えるように、また会の開催にあたり、適切な会場などの情報提供を求めるために、各地域で協力団体を依頼するようにした。また、了解を得た参加者には、参加者名簿により参加者の情報を公開し、お互いに連携が図れるようにと考えた。実際は、趣旨や日程等に合致した会場の確保が困難であり、希望する日程と講師の都合、会場の利便性、バリアフリー化、実習環境としての整備、借用料、空き状況などとのマッチングが難しかった。開催時期、時間（1日研修、時間配分）、会場（利便性、雰囲気）、人数枠、準備などに関する参加者による4回を通じた感想をまとめて下記に示す。

（アンケート意見）

- ・緊張することなく、実習も出来て良かった
- ・楽しみながら勉強できるのが良い
- ・過度な緊張感なく、気軽に参加できた
- ・周囲の方と情報共有でき、有意義な研修会
- ・集中することができ、楽しかった、コーヒーご馳走様でした
- ・リラックスした状態で参加でき、固苦しくなくて良かった、ゆるい感じが好きでした、楽しくお話が聞けて良かった
- ・楽しかった、1日の研修会なのでゆるい感じで良かった
- ・広くスライドも見やすかった、室温も寒く無くて良かった
- ・養護学校体育館での開催は、学校見学にもなった、広くて新しく、きれい、天井が高くて、暖かかった、ゆったり、明るく、室温も適温で良かった、広いスペースで窮屈にならず、集中しやすかった、駐車場もあるのでパソコンを持ち歩く身としては車で来れて良かった
- ・広すぎず、狭すぎず、広さがちょうどよく、スクリーンも見やすく、聞きやすかった
- ・広い、大きいスクリーンが見やすかった、スクリーンも見えやすい広さで人数もちょうど良かった
- ・JRから近くて交通の便も良かった、JRからも歩いて苦にならない距離
- ・参加しやすく、リラックスしやすく、とても良かった
- ・休憩時間内に機器の操作を教えてもらったり、体験できたので良かった、午後も集中できるぐらい昼休みが長かったので良かった
- ・エレベータもあり、バリアフリーで移動しやすかった
- ・電停に近い、交通の便が良かった、JR駅から近くて便利、アクセスがシンプルで容易、駅からの経路が分かりやすい
- ・理想的な受動禁煙対策が良かった
- ・昼休みをしっかりとることで時間の長さをあまり感じず研修に臨めた

- ・時間が詰め込みすぎた感じがあった
- ・実際のソフトを体験できたり。実体験を通した講演をしていただき、大変充実した時間になった
- ・1日で色々なことや話が聞けてとても良かった、掛け合いが面白かった
- ・人数的にも良かった
- ・パソコン動作や照明、空調などのコントロールのため会場内に従事職員配置を
  - ・パソコン使用に小さな机が不便だった
  - ・施設内にコンビニやレストランがある
  - ・とてもきれいで良かった
  - ・電源が使えて良かった
  - ・当事者が参加しにくい階段
  - ・駅から近くて良い
  - ・きれいな建物で快適
  - ・アクセスは良くないが、会場の広さ、学習環境は良かった
  - ・普段は入れない所に入れて嬉しかった
  - ・広さもマイクの声も聞きやすかった
  - ・広くてゆったりと、コーヒーもありがたい
  - ・トイレが近くにあるのもっと良かった
  - ・駅から近くて良かった
  - ・立地も設備も良かった
  - ・京大内でやや分かりづらかったが、きれい
  - ・広々としていてコーヒーまで用意していただき、ありがとうございました
  - ・場所も分かりやすく清潔感のある場所で、講義に集中できた
  - ・あたたかくしていただけて良かった

### 3. 広報について

助成申請の際には、1回研修会の参加者人数は、実習のことを考え、30名程度の少人数による開催と想定した。しかし、1回目の東京会場への参加申し込み状況から考え、せっかくの機会なので30名ではもったいないという関係者からの意見が聞かれ、定員数を60名に増やした。関係機関や支援者、家族会、利用者などを通じ、広報に努めたが、時期的に2月は、年度末であり、他の研修会と重複したこともあって、関西地区では、60名の定員数を満たすのは、難しかった。先のアンケート意見のように、継続的な開催希望や参加者レベルに応じた段階別研修への希望があったが、採算性や効率性、労力など、開催を実現させるには多くの課題があるように考えられた。

コミュニケーションの基盤となる「考え」や「発達」を踏まえながら、利用者の視点も加味した内容に加え、身近になった視線装置のソフトを使って個々が利用しやすいように編集する「実習」を組み入れたコミュニケーション支援の研修会は、今回が初めての企画であり、本研修会が一つのモデルとなって、支援者のサポーター養成の仕組みづくりの資料になるようホームページなどを通じ、情報公開していく予定である。

研修会の具体的な効果としては、・機器の周知、・人脈作り、・対象患者紹介、などが挙げられる。研修会をきっかけにした今後の具体的な展開としては、・機器周知、機器販売の拡大、・メーリングリスト等の情報交換の場を作る、などを考えている。具体的には、視線装置総輸入代理元会社は、東京に1社しかなかったが、大阪にも販売の拠点を置き、コミュニケーション機器の周知を図っていく予定であり、研修会がその起爆剤にもなった。また、京都では今回の研修会で協力団体として参加していただいた施設が、児童デイサービスの開設を考えており、研修会で得た人脈が開設のバックアップとなり、今後の展開を応援していく予定である。

重度障がい児者の在宅数が増加し、長く地域で生活していけるようになった現状において、当事者、家族のQOLを高めるための支援策の一つとして、コミュニケーション支援の重要性が広く人々に認知され、より質の高い支援策に進展していけるよう、今回の効果、参加者のその後の意見なども聞きながら、今後の支援のあり方を引き続き検討していく予定である。

最後に、本研修会は、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成」を受けて実施しました。心より深謝申し上げます。

# 重度障がい児者 コミュニケーション支援 サポーター養成研修会（東京会場）

日時 : 2015年8月1日（土）  
場所 : 京都大学東京オフィス インターシティA棟27階  
札幌 : 11/21、広島 : 12/12、大阪 : 2016.1/23  
定員 : 50名程度（先着順）  
対象 : 教員、作業療法士、言語聴覚士、看護師、保健師、介護支援専門員、ヘルパー 等  
参加費 : 無料  
内容 : [研修会プログラムダウンロード](#)

- 重度障害児者のコミュニケーション（講義）
- 支援機器の特長と適応（講義）
- 看取り経験を通じて支援を考える（ご家族のお話）
- 視線入力装置紹介（講義）
- 視線入力装置の有用性（講義）
- トビーコミュニケーター編集方法（実習）



問い合わせ : 株式会社クレアクト  
☎ 03-3442-5401  
mail [info@creact.co.jp](mailto:info@creact.co.jp)  
までご連絡ください

申し込み ; 以下の2つの方法から選んで、お申し込みください  
① E-mail : [info@creact.co.jp](mailto:info@creact.co.jp)  
② FAX : 03-3442-5402  
ウェブサイトから申し込み用紙をダウンロードしてください。  
[申込書ダウンロード](#)

主催 : 京都大学医学研究科 成育看護学分野 鈴木真知子（教授）  
<http://www.kyoto-childcare.net>  
株式会社クレアクト（担当 伊藤直弥 営業部長）  
<http://www.creact.co.jp/>  
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団助成事業





# 重度障がい児・者コミュニケーション力育成 支援者研修会～サポーター養成を目指しています～

障害が重い人とのコミュニケーションはどのように図ることができるでしょうか？

重度の障害児(者)のコミュニケーション機器の特徴と有用性、視線入力装置の有効活用など、コミュニケーション機器を使用することによってどの様なQOLの向上に繋がり、どの様な有益性があるのか等の理解を踏まえ、この研修会は、個々の力に応じた内容に編集をすることが可能なソフト、トビーコミュニケーターの編集方法を学ぶ機会にしたいと思います

日時 2015年11月21日(土) 9:30(受付)～17:00

場所 札幌市立 北翔養護学校体育館 (定員60名)

(札幌市西区発寒11条6丁目) 東京 8.1 終了、広島 12.12、大阪 2016.1.23 順

次開催

参加料: 無料

対象者: 教員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、保健師、介護支援専門員、ヘルパー 等

<プログラム>

9:30～受付 オリエンテーション 司会 鈴木 真知子

10:00～11:00(60分) 川田 学先生 重度障害児(者)のコミュニケーションについて(講義)

北海道大学大学院教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター

<11:00～11:10 休憩>

11:10～12:10(60分) 佐藤 美由紀さん 支援機器でこんなふうの世界が広がる!(講義)

NPO 法人 icare ほっかいどう

<12:10～13:30(80分) 昼休憩 & 機器展示 >

13:30～14:00(30分) 岩野みのりさん 看取り経験を通じて支援を考える(家族のお話)

14:00～14:30(30分) 伊藤直弥さん 新たな技術によるコミュニケーション 視線入力装置マイトビー紹介

14:30～15:00(30分) 深瀬 和文さん 視線入力装置の有用性(使用者の体験談)

<15:00～15:10 休憩>

15:10～16:50(100分) 伊藤直弥さん トビーコミュニケーター編集方法(実習) 株式会社クレアクト 営業部長

16:50～17:00 質疑応答、修了式

【問合わせ・申し込み】

株式会社クレアクト ☎03-3442-5401 メール info@creact.co.jp までご連絡ください

申し込み ; メールにてお申し込みください(先着60名)

ウェブサイトから申し込み用紙をダウンロード(ダウンロード先 <http://www.creact.co.jp/>)

主催 京都大学医学研究科 成育看護学分野 鈴木 真知子(教授)

株式会社クレアクト 担当 伊藤 直弥(営業部長)

協力団体 医療法人 稲生会

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2014年度(後期) 助成事業

# 重度障がい児・者コミュニケーション力育成 支援者研修会～サポーター養成を目指しています～

障害が重い人とのコミュニケーションはどのように図ることができるでしょうか？

重度の障害児(者)のコミュニケーション機器の特徴と有用性、視線入力装置の有効活用など、コミュニケーション機器を使用することによってどの様なQOLの向上に繋がり、どの様な有益性があるのか等の理解を踏まえ、この研修会は、個々の力に応じた内容に編集をすることが可能なソフト、トビーコミュニケーターの編集方法を学ぶ機会にしたいと思います

日時

2015年12月12日(土) 9:30(受付)～17:00

0

場所

広島県健康福祉センター (定員60名)

(広島市南区皆実町1丁目6-29) 東京8.1 終了、北海道11.21、大阪2016.1.23

順次開催

参加料: 無料

対象者: 教員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、保健師、介護支援専門員、ヘルパー 等

<プログラム>

9:30～受付 オリエンテーション 司会 鈴木 真知子

10:00～11:00(60分) 七木田 敦先生 重度障害児(者)のコミュニケーションについて(講義)

広島大学大学院教育学研究科 附属幼年教育研究施設

<11:00～11:10 休憩>

11:10～12:10(60分) 中村 内彦さん 支援機器でこんなふうの世界が広がる!(講義)

パシフィックサプライ株式会社 事業開発本部 事業推進部 施設・在宅ケア事業グループ

<12:10～13:30(80分) 昼休憩 & 機器展示>

13:30～14:00(30分) 村瀬 春美さん 看取り経験を通じて支援を考える(家族のお話)

14:00～14:30(30分) 伊藤 直弥さん 新たな技術によるコミュニケーション 視線入力装置マイトビー紹介

14:30～15:00(30分) 三保 浩一郎さん 視線入力装置の有用性(使用者の体験談)

<15:00～15:10 休憩>

15:10～16:50(100分) 伊藤直弥さん トビーコミュニケーター編集方法(実習) 株式会社クレアクト 営業部長

16:50～17:00 質疑応答、修了式

【問合わせ・申し込み】

株式会社クレアクト ☎03-3442-5401 メール info@creact.co.jp までご連絡ください

申し込み ; メールにてお申し込みください(先着60名)

ウェブサイトから申し込み用紙をダウンロード(ダウンロード先 <http://www.creact.co.jp/>)

主催 京都大学医学研究科 成育看護学分野 鈴木 真知子(教授)

株式会社クレアクト 担当 伊藤 直弥(営業部長)

協力団体 広島支援機器研究会

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2014年度(後期) 助成事業

# 重度障がい児・者コミュニケーション力育成支援者研修会 ～サポーター養成を目指しています～

障害が重い人とのコミュニケーションはどのように図ることができるでしょうか？

重度の障害児(者)のコミュニケーション機器の特徴と有用性、視線入力装置の有効活用など、コミュニケーション機器を使用することによってどの様なQOLの向上に繋がり、どの様な有益性があるのか等の理解を踏まえ、この研修会は、個々の力に応じた内容に編集をすることが可能なソフト、トビーコミュニケーターの編集方法を学ぶ機会にしたいと思います

**日時** 2016年2月7日(日) 9:30(受付)～17:00 **最終!!**

東京8.1、北海道11.21、広島12.12終了

**場所** 京都大学医学研究科人間健康  
杉浦地域医療研究センター(定員60名)

(〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53 TEL:075-751-3901)

**参加料: 無料**

**対象者:** 教員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師、保健師、介護支援専門員、ヘルパー 等

## <プログラム>

9:30～受付 **オリエンテーション** 司会: 鈴木 真知子

10:00～11:00(60分) 塩瀬 隆之先生 京都大学総合博物館/京都大学デザイン学ユニット  
コミュニケーションデザイン研究から考える「伝えると伝わるのちがひ」(講義)

<11:00～11:10 休憩>

11:10～12:10(60分) 中村 内彦さん 支援機器でこんなふうの世界が広がる!(講義)  
パシフィックサプライ株式会社 事業開発本部 事業推進部 施設・在宅ケア事業グループ

<12:10～13:30(80分) 昼休憩 & 機器展示 >

13:30～14:00(30分) 村瀬 晴美さん 看取り経験を通じて支援を考える(家族のお話)

14:00～14:30(30分) 伊藤 直弥さん 新たな技術によるコミュニケーション 視線入力装置マイトビー紹介

14:30～15:00(30分) 高松 崇さん 視線入力装置の有用性 NPO 法人支援機器普及促進協会(ATDS)

<15:00～15:10 休憩>

15:10～16:50(100分) 伊藤 直弥さん トビーコミュニケーター編集方法(実習)株式会社クレアクト営業部長

16:50～17:00 **質疑応答、修了式**

## 【問合わせ・申し込み】

株式会社クレアクト ☎03-3442-5401 メール info@creact.co.jp までご連絡ください

申し込み ; メールにてお申し込みください(先着60名)

ウェブサイトから申し込み用紙をダウンロード(ダウンロード先 <http://www.creact.co.jp/>)

主催: 京都大学医学研究科 成育看護学分野 鈴木 真知子(教授)

株式会社クレアクト 担当 伊藤 直弥(営業部長)

協力団体: 訪問看護ステーションアドナース/訪問介護まごのて洛西

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2014年度(後期) 助成事業